



たかおか 更生保護だより

コロナに打ち克て!



発行

高岡市保護司会
高岡市更生保護協力会
高岡市役所社会福祉課内
〒933 8601 富山県高岡市広小路 7 50
☎ (0766) 20 1367 Fax 20 1371
高岡市更生保護サポートセンター
高岡市役所東別館 2 階
☎ (0766) 53 5101 Fax 53-5102
E-mail: tksc@takaoka-hogosikai.org

「二上山/雪化粧」

高岡“いいね”フォトコンテスト第6回月間賞・平成26年度年間グランプリ受賞作品。

「二上山/雪化粧」は、うっすらと雪が積もった二上山の麓に朝霧が漂う幻想的な風景の作品です。澄んだ空気の中に凜とそびえる二上山と、水鏡のような小矢部川、対岸を霞める霧の帯をひとつの構図に収めた、奥行きや広がりを感じる一枚です。

撮影者:美宅 雅利さん (撮影場所/高岡市四屋) 提供:高岡市未来政策部秘書課 広報広聴室

コロナ禍と福祉支援



更生保護法人
富山養得園
施設長 島田 昌彦

高岡市保護司会の皆様には、日頃から富山養得園の事業運営に対し、格別のご理解とご厚情をいただき深く感謝申し上げます。

また、富山養得園の改築に際しては、高岡市保護司会の皆様から、たくさんのご厚志を頂戴し、改めてお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めると同時に、犯罪件数が減り、矯正施設の収容人員も激減したと聞いております。この影響からでしょうか、富山養得園の収容人員も減少し、定員20名のところ一時は5名程度まで減少しました。

支援対象者が減るということは、保護司の皆様を始め、更生保護に携わる方々の日頃からのご尽力の賜にほかありません。本来ならば喜ぶべきことなのでしょうが、施設を運営する立場からしますと痛しかゆしの状況なのです。

しかし、刑務所から出所した人ばかりではなく、刑の執行猶予や起訴猶予、罰金などの処分を受けて、保護を必要とする人を積極的に受け入れるよう努力した結果、現在は50

パーセントを僅かに超える収容率を確保するようになりました。

9月末現在、富山養得園では11名を保護しており、最年少が18歳、最高齢が78歳となっております。

富山養得園は、就労支援のみならず、高齢者の福祉支援に特に力を入れております。住所を富山養得園に移し、国民健康保険証を取得させる一方、手続きが面倒だとか難しいとして、年金を受給していなかった人の手続きや、コロナ関係の特別給付金を受給できるように支援した結果、数多くの人が福祉の恩恵を受けられるようになりました。

これらの給付金等を自立資金に繋げ、無事に社会復帰してくれることを心から願うばかりです。

富山養得園は保護司会をはじめ、更生保護女性会、協力雇用主会など、各関係機関のお力添えのおかげで成り立っている施設でございます。

今後とも、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い致します。

結びに、高岡市保護司会の活動が、ますます発展されますことをご祈念申し上げます。



富山養得園

平成31年3月竣工!



第72回『社会を明るくする運動』メッセージ伝達式



「第72回社会を明るくする運動」内閣総理大臣および富山県知事メッセージ伝達式が、社明強調月間初日の7月1日、高岡駅万葉ロードにて午前7時15分より実施されました。

内閣総理大臣のメッセージを高岡市保護司会平田和雄会長から、角田悠紀社会を明るくする運動高岡市推進委員会々長（高岡市長）へ、新田八郎富山県知事のメッセージを高岡市保護司会鹿嶋茂副会長から、本田利麻高岡市議会副議長へそれぞれ伝達されました。

総理大臣メッセージを受けられた角田会長より、高岡市において犯罪の少ない、また、再犯をなくす環境づくりに取り組み、安全で安心して暮らせる高岡市になるように努めていきたいと思います。と決意表明がありました。

例年、活動に理解と協力をいただいている「あいの風とやま鉄道高岡駅」塚本晃駅長をはじめ、各種団体より20名余り高岡市保護司会・高岡市更生保護女性会と合わせて60名余りの参加がありました。伝達式終了後、角田会長をはじめ参加者全員で、啓発ティッシュの配布を行いました。



鹿嶋副会長から本田利麻副議長へ



平田会長から角田悠紀市長へ

また、当日は他に高岡市内各駅頭6か所、高岡市保護司会・高岡市更生保護女性会を中心に、約70名の皆様の協力がありPR活動を実施しました。

いしました。
(地域活動部長 田子 実)

高岡市内の各小・中学校へ総理大臣及び富山県知事メッセージを届け、子供たちに話してもらったことにより「社会を明るくする運動」への理解と協力を伝えていただくようお願い

第72回『社会を明るくする運動』公開ケース研究会 in 福岡中！

「第72回社会を明るくする運動」の関連行事として、公開ケース研究会

が、「福中Be Strong!」地域との絆を深め、愛される福中を目指して」というテーマのもと、高岡市立福岡中学校（全校生徒286名）において開催されました。

福岡中学校では、生徒会が中心となり、これまで行ってきた地域との交流活動が紹介されました。

小・中・高による合同挨拶運動をはじめ、つくりもんまつりやリバーサイドフェスタなどの催し物の後の清掃活動や、シトラスリボン製作、豆菅笠づくり、福岡町の税理士による租税

教室など、地域との関わりや地域の一員として



福岡中学校吹奏楽部による演奏



福中Be Strong! ～地域との絆を深め、愛される福中を目指して

て自分たちにできることを自ら考え、学校と地域が連携する明るい社会づくりへの多彩な活動が報告されました。終わりに、吹奏楽部による演奏を鑑賞しました。当日は雨足が強まり、湿度も高く過ごしにくい日となりましたが、その軽快な演奏を聴くと、一変して晴れやかな気分になりました。

保護司の活動をしていると、自分のやっていることはこれで良いのか、間違っていないのか、馴れ合いになっっていないか、自己満足に留まっていないか、などと、自分自身に対して疑心と内省を抱くことがあります。

福岡中学校の皆さんの活動は、とても純粋で懸命であり、本研究会を通して、保護司としての活動に自信と勇気を与えてくれる発表で、とても心に染み入る公開ケース研究会でした。

(地域活動部会 梁瀬 正文)

高岡市更生保護協力雇用主会総会・研修会

令和4年度、高岡市更生保護協力雇用主会総会は8月26日、高岡市ふくおか総合文化センターで開催されました。

林光彦専務理事の司会で、はじめに八田正人会長の開会の挨拶、次に中澤秀高富山保護観察所長から祝辞をいただきました。また、本会の来賓として、行沢隆信高岡公共職業安定所長、尾崎憲子市社会福祉協議会長、戸田龍太郎市福祉保健部長、角田幾子市更生保護女性会長が出席されました。

続いて、八田議長の議事進行で、令和3年度事業報告と決算報告（監査報告）があり、可決されました。次に令和4年度の事業計画案及び収支予算案が原案通り可決され、山岡弘之副会長の閉会の挨拶で総会は終了しました。

研修会では、富山保護観察所 統括保護観察官瀧下光夫氏から「就労支援について」と題して講演をいただきました。

「なんのために就労支援するのか」「保護観察所の就労支援の方法」「なぜ、不就労や転職を繰り返すのか」など、対象者の現状や保護観察所が行っている就労支援について聞きました。また、再犯再非行を防ぐには、規則的な生活や継続的な仕事に就くことと、職場などに気遣う人がいて「地域の中でつながっていく」と話されました。

（協力組織部会 松川 和恵）

高岡市更生保護女性会理事視察研修報告

9月6日、コロナ禍で久しぶりのバスでの視察研修に、万全の感染対策をし、出発しました。

一か所目は、薬物依存症回復施設 富山ダルクでした。施設内で林代表からじっくりお話を聞きました。

「今日一日薬物に手を出さない」を、共同生活の中で支え合い積み重ねておられる姿に感動しました。心や依存症に関係のある病気と向き合い、自分一人の意思では治すことができません。ダルクは薬物を止めさせるための施設ではなく、人生を自由に選択し自分を「いいな」と思えるような回復を目指しておられます。

日本海と立山連峰を背景に、ミーティングやレクリエーションの他に、和太鼓の練習に取り組み日々を過ごす施設内の見学もさせて頂きました。

二か所目は、児童自立支援施設富山県立富山学園です。園長と園長代理の先生に、施設の沿革、一年の行事、一日の過ごし方等の説明を受けた上で、学園や新築間もない整理整頓されプライバシーへの配慮のある寮を見学しました。

入所しているのは、児童相談所の判断で、自立のための生活指導が必要とされた14歳以下の少年少女たちです。

愛育園とのかかわりで児童養護施設は知っていましたが、自立支援施設という存在を改めて知った理事もいました。

広い校庭でマラソンの練習をする生徒の姿を参観し、学園を後にしました。

角田幾子会長をはじめ17名の参加で、親睦もより深まり、今後の活動につながる実り多い視察研修となりました。（更生保護女性会 村本 順子）

第II期地域別定例研修会 テーマ「特定少年」

9月14日開催の第II期地域別定例研修会では、本年4月1日に施行された改正少年法により設けられた「特定少年」について研修会を開催しました。



先ず、経緯の説明があり、平成19年に成立した国民投票権が18歳以上とされ、それを受け、平成27年に公職選挙法の選挙権を有する者の年齢が18歳以上と成りました。その後、平成30年に民法上の成年年齢が18歳に引き下げられ現在に至っています。

改正における少年法の18・19歳に対するスタンスは、①投票、選挙権、民事上の権利能力については、100%成人②刑事責任においては、法的に

自律的な存在との位置づけとなったが、「類似的に未だ十分に成熟しておらず、成長発達途上にあつて可塑性を有する存在」であり、異なる取り扱いを行う。

⑦大きな罪を犯した場合、成人として刑事責任を問うべき。

⑧それ以外の者については、犯した罪の軽重を考慮し、犯した罪（非行）の責任を超える処分をしない。というスタンスです。

また、保護観察についても、不処分決定をする場合を除き、犯情の軽重を考慮してⅠ6月の保護観察Ⅱ2年の保護観察Ⅲ少年院送致（収容期間3年以内）のいずれかの保護処分の決定をするものとされました。

一方で、少年の改善更生を旨とする少年法の根本的な理念に変わりはなく、実際の保護観察処遇の場においても、その影響は限定的であると思われまます。

今後とも関係者の皆様とともに、少年らに寄り添い、支援・指導の輪を広げてまいりたいと思います。

（研修部会 石坂 守）



東部支部 山崎 肇

保護司の自覚

保護司を委嘱されて、はや3年となりました。

2年目に入ったとき、生活環境調整の依頼がありました。初めてという事で、複数担当制の適用を受け先輩方の助けを頂きながら引受人の父母との対話を通して進めました。ところが、半年を過ぎた頃に、対象者が引受人を変更したため、担当が打ち切りとなりました。

それから以降は、ずっと保護観察等の担当の無い日が続くのですが、保護司としてのモチベーションがだんだん薄れてきていると感じています。

そんな中での、地域別定例研修会、支部会等の機会は、自己の資質向上研修となり、先輩保護司の経験談が大いに刺激になりました。

東部支部では自主研修会での地域別処遇会議として、各自自由テーマを設定して講演を行っています。

また、観察対象者処遇会議においても、今後の保護司としての活動に活かせる豊富な体験談や、素直な感想、考察を聞く事が出来ます。

支部会に参加し、何でも話し合いの出来る環境、何でも相談の出来る環境に感謝しつつ、経験の少ない自分に、いつ役が回って来ても毅然とした対応が出来るよう、保護司としての自覚を保っていたいと思います。

西部支部 金森 純美子

第72回社会を明るくする運動が実施され、西部支部は例年通り西高岡

駅で利用する一人一人の方々に、朝の気持ち良い挨拶をして、ロゴ入りポケットティッシュを配りました。明るい社会づくりを宜しくお願いますと3年ぶりの掛け声にも力が入りました。



ミニ集会は7月26日に、国吉公民館で行い、地元自治会をはじめ関係各位が参加されました。保護司活動の内容及び現状や体験談の説明の後、高岡保護司会研修部の宇波部長に薬物乱用防止について話をしてもらいました。

昨年五位校区においても一般の方は、聴く機会が少なく、大変参考になったとの意見があり、今年国吉校区でも開催する事になりました。

地域社会においても現実的な問題であり、一人でも多くの方々に知ってもらえるのは、もしもの対策につながる良い機会となります。国吉においてもお伝えすることができてよかったですと思いました。

保護司の活動が安心して安全な、明るい社会づくりのための情報交換の輪を広げる活動につながるよう、安居支部長を中心に支部全員で活動していきたいと思えます。

南部支部 嶋川 美和子

7月13日開催のミニ集会は、保護

司11名と更女会5名、学校関係4名の参加のもと、富山県教育委員会小中学校課児童生徒育成係指導主事の金場安史先生を講師に、「学校における生徒指導」というテーマで、研修会を開催しました。

いじめっ子の変化に伴い「ネットいじめ」が近年増加傾向にあり、人間関係に、深刻なトラブルが起きているそうです。



トラブルが起きる前に、いじめっ子と、いじめられっ子の間を取り持つ「一言が伝えられる友達・相談できる友達」を育てる教育に力を注いでいることに、感銘を受けました。

富山県のいじめの認知度が、全国で最下位ということですが、表に出していないいじめや、見過ごされているいじめも気になります。

学校では、いじめかな？と思ったら、担任は学年主任や職員会議など、学校の組織で対応するように、職員全体で周知徹底しているそうです。金場先生の講話は、前説から楽しく、ついつい笑ってしまいうほどで、支部会員は常に引き付けられながら、共に学びを深めることができました。

北部支部 石坂 守

新任保護司として

令和3年5月に保護司を委嘱され、新任研修・支部定例会・ミニ集会など、コロナ禍の中、仕事との両立を図り、少しずつではありますが、保護司としての自覚を持てるようになりました。

昨年11月下旬から今年1月中旬にかけて、「生きて、ふたたび保護司・深谷善輔」というNHKドラマが放送され、全8回を視聴しました。

保護司の使命は、罪を償い社会に復帰しようとする人々の「生き直し」を助ける日本独自の制度で、保護観察や生活環境調整、犯罪予防活動などを行うものです。

保護司法では「保護司は、社会奉仕の精神をもって、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、もって地域社会の浄化をはかり、個人及び公共の福祉に寄与することを、その使命とする」と定められております。

本作では高校教師から保護司に転身した男性が、仮出所中の人々との交流を深めることによって、自身身の人生をかけた闘いに挑む姿を描いた作品でした。私は、凄く感動し自分にはないものの見方や価値観に触れ、良いタイミングでこのような番組を視聴できたと感じました。

これからも積極的に研修会等に参加し、保護司としての知識と経験を重ねていきたいと思えます。

伏木支部

針山 健史

これまで地域のお手伝いはできる限りしてきたつもりではあります。まだまだ人生経験も浅い自分で務まるのか不安を感じながら、昨年12月に富山保護観察所で辞令交付を受け、保護司として委嘱され1年が経とうとしております。

自分なりに変化がありました。それは犯罪に対するニュースにとっても敏感になったことです。残虐化、巧妙化する犯罪を嘆きつつも、思わず人間模様や動機といった背景にまで目が届くようになりました。

また保護観察対象者担当の経験はありません。研修会や地域行事等への参加が主な活動となっております。

伏木支部には私を含めて13名の保護司が所属しており、定例会や地域活動などを通して先輩方から貴重なアドバイスをいただいております。毎日はです。

保護司の高齢化が進み、担い手の人材確保が課題だと聞いています。保護司の使命や活動への理解が、より深まるよう、積極的に活動していきたいと考えています。



戸田支部

高桑 淨誓

保護観察対象者との面接では、生活面での助言や、対象者の家族からの相談等があり、社会の中で更生するようにと指導・支援をしています。その支援についてですが、なかなか就労できない対象者に、まず、ハローワーク高岡（高岡公共職業安定所）のウェブサイトを聞き対象者に合うような就労先を探しました。

その時に、ハローワーク高岡の支援メニューに「こころの健康相談コーナー」というものがありました。臨床心理士との面接なので、ハローワーク高岡を訪問し、内容を聞きましました。ハローワーク高岡への登録は、事前予約が必要であることを言われました。

次に、高岡地域若者サポートステーション（高岡市駅南中野ビル1階）へ電話をし、訪問しました。高岡地域若者サポートステーションは、厚生労働省の委託を受け、自治体等と協働で、15歳から49歳の無業者の就労支援を行っています。

訪問の際、さまざまな講座や職場体験を紹介いただき、なるべく本人自らの相談、または家族の方に来てもらうように言われました。

これらを対象者に勧めましたが、結果的には利用することはありませんでした。何でもチャレンジするようにと促しましたが、就労支援の難しさを実感しました。

福岡支部

村上 委千子

7月31日コロナ禍の中、3年ぶりに「第72回社会を明るくする運動福岡大会」がふくおか総合文化センターにおいて開催されました。

当初の予定では、福岡小学校6年生および福岡中学校1年生200名、そして一般市民100名を招待し開催する予定でしたが、コロナ感染者が増加し、やむなく最小限の参加人数に留めることとなりました。

大会では小学6年生3名、中学1年生3名の発表があり、環境問題・いじめ問題・挨拶運動や家族や友達同士の助け合いなど、それぞれ自分なりの生活の中で体験し、感じたことが等身大で発表されました。児童生徒それぞれの真剣で、純粋で混じりつきの真意に、胸が熱くなり、私自身が、人と人とのつながりの中で、何ができるのかという思いに至りました。



また、これまで大会司会者はPTA関係者が行っていました。今年度は福岡中学校の生徒に進行してもらい、非常に素晴らしい大会となりました。来年は、児童生徒や市民の方々でいっぱいになった会場で開催したいと思えます。

現場からのレポート

初めての生活環境調整を担当!

私が保護司を委嘱されて半年が過ぎようとしていた頃、主任官から生活環境調整を初めて依頼されました。生活環境調整担当通知書、身上調査書など、詳しい内容の書類が郵送されてきましたので、早速「生活環境調整の計画」を熟読しました。生活環境調整報告書(甲)の提出締め切りは約一か月後でしたので、引受人と面接日時の調整を図り、準備を進めました。

初回面接の日に、まず「保護観察・生活環境調整の進め方」の手順通りに進めることと、聞き取りの際に引受人が思っていることの真意を掴むことを念頭に置きながら、引受人宅に向かいました。

面接に当たり全てが初めてのことで、終始とても緊張しましたが、まずは事前に心づもりしていたとおりに面談を進めることができ、面談内容も取りこぼさず詳細に記録したことから、報告書の記入に際しては、滞りなく記載することができました。

しかしながら実際に相対してみると、相手の真意を理解することや、私を信頼してもらうことの難しさも感じました。

今後も今回の体験を振り返りながら、対象者に寄り添う心を忘れず活動して行きたいと思えます。

(福岡支部 子吉 徹)

◇「いっしょ家庭庁」の創設と

児童虐待防止対策の推進

子ども政策に総合的に対応する「子ども家庭庁」が、令和5年4月、内閣府の外局に創設されます。首相直属の組織で、支援から取りこぼされた子どもを生じさせないことを大きな目的に、少子化対策、児童虐待、子どもの貧困、ひとり親支援など、子どもと保護者を取りまく問題対策を幅広く担います。行政の縦割り打破の象徴として司令塔になることが期待されています。



保護者

「子ども家庭庁」の創設

こういった中、9月2日、児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議が開催され、「子ども家庭庁」の取組を強化するとともに、子育て世帯に対する包括的支援強化のため、本年改正された児童福祉法（一時保護に司法審査導入、児童養護施設の退所年齢制限撤廃など）の円滑な施行に取組む必要があると提言されました。

- ①子どもの権利擁護
- ②児童相談所及び市町村の体制強化
- ③児童虐待の発生予防・早期発見
- ④適切な一時保護の実施
- ⑤社会的養護の充実
- ⑥親子再統合への支援強化
- ⑦関係機関における事案への対応強化
- ⑧DV対応と児童虐待対応との連携強化
- ⑨障害児支援の充実
- ⑩関係機関との連携強化が示されています。

保護司の視点

魔の薬物フェンタニルが増加

全国の児童相談所における虐待相談対応件数は、近年増加し続け、令和3年度には20万7659件に上り、過去最多を更新しました。また、虐待による痛ましい事件が後を絶たず、令和2年度には77人のかげがえのない命が失われています。子ども家庭分野の施策は、常に子どもの最善の利益を第一に考えて対応することが求められます。国民の大きな期待を背負って創設される「子ども家庭庁」には、その機能を最大限に発揮して課題に対応して欲しいものです。

(広報部 中田 保博)

大麻やコカインは、もう儲からないうとし、多くの麻薬カルテルらは、フェンタニル（小さな悪魔）の密売に移行していると聞く。フェンタニルには様々な形があり、処方箋があれば合法的に手に入り、麻酔や手術時の鎮静剤としても使用され、パッチや点滴でも投与される。依存度は高く、路上では錠剤やオキシコドンなど他の合成オピオイド系鎮痛剤として違法に流通している。フェンタニルはヘロインよりも約30倍強力だと言われ、米国では1999年以降、オピオイド系鎮痛剤の過剰投与による死者数は1倍に上っており、2016年に薬物で、6万4

000人近いアメリカ人がオピオイドが原因で死亡している。このうち約2万1000人はフェンタニルのみ使用によるものであるという。フェンタニルは、他のオピオイド系鎮痛剤よりもはるかに強力で、麻薬密売人は少量のフェンタニルを混ぜるだけで、強力な薬物として売ることができ、利益もかなり大きい。しかし、摂取量がほんの少し多いだけでも死に至ることから、「ヘロインは死ぬかもしれないが、フェンタニルは、ほぼ死ぬ」と言われており、とても危険な魔の薬物である。米国内の調査によると、フェンタニルのオンライン販売業者6つの内、5つは中国が拠点で、販売業者はUSPS（米国郵便公社）を使い、米国内300カ所以上に数百パッケージを郵送しているというデータが報告されている。過去の調査で、メキシコの関与も明らかで、中国から送られた原材料がメキシコの密売人によって、大量のフェンタニルに加工されている。もちろん米国に直接送られ、加工されている例もある。密売人は、原材料を中国から入手し、コロンビア人の薬剤師に5万ドル（約73万円）を払いフェンタニルの作り方を教わったと語っている。日本においては、水際での徹底した警戒が喫緊の課題であり、薬物乱用防止指導員としても、より研修を重ねなくてはいけないと思う。

(薬物乱用防止指導員 村上 喜文)

高岡地区の交通安全活動広報紙 第4回シャフルボード大会開催

10月22日、高岡市ふれあい福祉センター体育館において、高岡市保護司会、高岡市更生保護女性会と共同で企画している「第4回シャフルボード大会」は、51名の参加を得て開催しました。

今回の大会は、高岡法科大学西尾教授をはじめ、学生11名の参加もあり、とても賑やかな大会でした。A・B各コート4チームに分かれて、予選を行い、各コート上位2チームでの準決勝、3位決定戦、優勝決定戦と白熱した試合を行いました。プレイヤーがキューでディスクを打つ一挙手一投足に、参加者全員が入り、得点が入るたび、また、マイナスポイントが入るたびに「ワーツー！」「キヤー！」と一喜一憂しながら試合を見守っていました。

試合結果は、西尾教授所属の土星チームが3位、富山保護観察所比嘉企画調整課長所属の金星チームが準優勝、平田保護司会長所属の水星チームが優勝となり、第4回大会は盛会の内に幕を閉じました。

(高岡地区BBS会々長 萩原 隆幸)



高岡市保護司会活動スナップ



高岡駅万葉ロードに集まった関係機関の方々。(7/1)



高岡駅にて角田市長も通勤・通学者に啓発ティッシュを手渡す。(7/1)



社明運動高岡推進委員会市庁舎802号(6/22)



第Ⅱ期地域別定例研修会(9/14) テーマ・「特定少年」について



東部支部ミニ集会(7/12) 新高岡児童相談所の現況について



戸田支部社明運動駅頭一斉広報活動・戸出駅(7/1)

令和5年7月 富山県更生保護フェア in 高岡 開催決定

第73回“社会を明るくする運動”富山県更生保護フェア in 高岡が、令和5年7月に高岡市で開催されることとなりました。

この更生保護フェア in 高岡は、社会を明るくする運動の一環として、“社会を明るくする運動”富山県推進委員会と“社会を明るくする運動”高岡市推進委員会が主催して開催されます。

主管する高岡市保護司会では、この運動への協力の輪を広げるべく、犯罪や非行をした人の立ち直りを支える更生保護制度の底流にある「思いやりのこころ」をテーマに、本市中学生の公開ケース研究会や講演を通じ、広く一般の皆様へ更生保護について理解の浸透を図りたいと考えております。

県内各地から更生保護関係者の方々や市民の皆様、中学生など積極的なご参加をお待ちしています。

日時・会場・日程概要

日時 令和5年7月8日(土)13時30分～15時45分(開場12時30分)

会場 富山県高岡文化ホール 大ホール
高岡市中川園町13-1 (☎0766-25-4141)

- 日程**
- 13:30 アトラクション 高岡市立高陵中学校吹奏楽部
 - 13:50 開会式 (富山保護観察所長、富山県知事、高岡市長)
 - 14:10 公開ケース研究会 高岡市立高陵中学校生徒会
 - 14:40 講演 (富山養得園施設長) 島田 昌彦
 - 15:40 閉会式 (高岡市保護司会長) 平田 和雄
 - 15:45 閉会



(総務部会 清水 康男)

令和4年度 秋の叙勲・表彰者紹介

◆法務大臣表彰

- 作井 宗人 (東部支部)
- 館 勇将 (東部支部)
- 村上 喜文 (南部支部)
- 二塚 晃 (北部支部)
- 西田 泰啓 (伏木支部)

◆全国保護司連盟理事長表彰

- 山本 美和子 (西部支部)
- 小島 清美 (北部支部)
- 小嶋 仁子 (北部支部)
- 桃井 善昌 (戸田支部)

◆中部地方更生保護委員会委員長表彰

- 金森 純美子 (西部支部)
- 安居 登 (西部支部)
- 鹿嶋 茂 (伏木支部)
- 梁瀬 正文 (福岡支部)

◆中部地方保護司連盟会長表彰

- 金田 紀子 (東部支部)
- 曾田 康司 (西部支部)
- 八田 正人 (西部支部)
- 炭谷 淳 (南部支部)
- 幸塚 昭英 (伏木支部)

◆富山保護観察所長表彰

- 秋野 智子 (西部支部)
- 本保 由喜美 (西部支部)
- 吉久 千恵美 (伏木支部)

◆富山保護観察所長感謝状(勤続10年)

- 後谷 仲子 (北部支部)
- 高桑 淨誓 (戸田支部)
- 深松 慶子 (戸田支部)

◆富山保護観察所長感謝状(家族功労)

- 山本 誠 (西部支部)
- 村上 伊希子 (南部支部)
- 東洋通信工業株式会社
- 民間協力事業者

◆富山県保護司会連合会会長表彰

- 山崎 肇 (東部支部)
- 滋野 雅治 (西部支部)
- 中田 保博 (北部支部)

◆高岡市功労者表彰(保護司)

- 館 勇将 (東部支部)
- 村上 喜文 (南部支部)
- 西田 泰啓 (伏木支部)

保護司の動静

退任保護司

- 山崎 栄三様 (東部支部)

推薦書籍の紹介

「うちの子は大丈夫」は、通用しない。

スマホで薬物を買う子どもたち



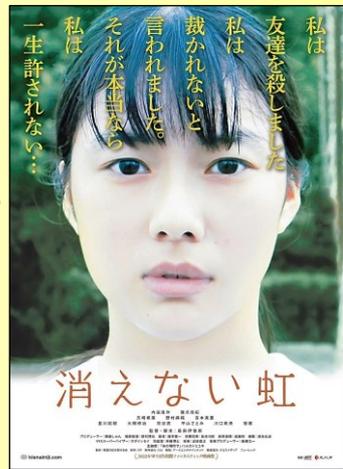
瀬戸晴海

元・関東信越厚生局 麻薬取締部部長



新潮新書

推薦映画の紹介



「消えない虹」

月野木薫は13歳のときに友達の行で妹を亡くした。その後、新聞記者になった薫は、結婚を控え自分だけが幸せになることへの後ろめたい気持ちを抱きつつ、友人である岡田の子供たちの面倒を見ていた。

そんな折、中学校の屋上から女子生徒が転落する死亡事故が起き、薫は加害者の少女が岡田の娘(茜)だということ突き止める。

解説

(監督・脚本 島田 伊知郎)

現在と過去に起きた二つの殺人事件を通して、人々の希望と再生を描くヒューマンドラマ。刑事責任を問われない14歳未満の少年少女が引き起こした触法事件を通じて、罪を償うこと、赦すこととは何かを深く問う映画で、少年法と更生保護に一石を投じた作品に仕上がっています。

ぜひ、更生保護関係団体でも視聴が実現するよう心から願っています。(広報部 村上 喜文)

スポーツ&レクリエーション交流

- ふれあい福祉センター体育館
- 毎月1回(開催日は随時案内)
- シャフルボードには、対象者担当の保護司は、一緒にご参加下さい。
- 問い合わせ サポートセンター
- Tel 0766・53・5101

主催 高岡市保護司会 高岡市更生保護女性会 高岡地区BBBS会



勇気を出して相談しよう!

無料の悩み相談窓口

もし、あなたが悩みを抱えていたら、ぜひ相談してください

「いのちSOS」 NPO法人 自殺対策支援センターライフリンク 0120-061-338

「よりそいホットライン」 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 0120-279-338 岩手・宮城・福島からは 0120-279-226

「チャイルドライン」 NPO法人 チャイルドライン支援センター 0120-99-7777 18歳までチャットもあります

「生きづらびっと」 NPO法人 自殺対策支援センターライフリンク SNSで相談「生きづらびっと」で検索

※相談受付時間は、各窓口のホームページ等で確認してください。

編集後記

11月20日は、国際連合で定められた「世界子どもの日」です。

世界では4人に1人の子供が災害や紛争など、緊急事態にある国々で暮らしています。インターネット上で被害を受ける子どもを保護するなど、新たな課題も生まれています。

誰一人取り残さない、地域共生社会の実現に向けた取り組みが、保護司にとっても課題であると思います。

ここに「更生保護だより第43号」をお届けします。(広報部M)